

2016.09.11

Mie Infection Control Network(MieICNet)

感染対策相談支援について 事例報告

三重県院内感染対策ネットワーク
南島メディカルセンター 松島由実

Mie Infection Control Network(MieICNet)

1. アウトブレイク支援 [全職種]

各医療機関においては、アウトブレイクが発生し、対応困難な事態が発生した際、MieICNet参加の医療機関の中から専門家(医師・看護師・薬剤師・検査技師等)を派遣し、改善支援を行う。
・疫学的調査、改善策の立案、院内職員や外部への対応等の支援

2. 日常的な感染対策への相談支援 [全職種、主に看護師]

各医療機関から感染対策上の質問等を受け付け、MieICNet参加の医療機関の中から専門家(医師・看護師・薬剤師・検査技師等)がアドバイスを行う。
・メール/FAX等で質問を受け付け、各分野の専門家が回答
・共有すべき情報があれば、web上でQ&A集を公開

3. 微生物学の情報収集・検査の支援 [主に検査技師]

各医療機関で実施できない特殊検査等を受付、検査可能な医療機関において実施
・三重県院内感染対策サーベイランス(Mie Nosocomial Infection Surveillance: MINIS)
・三重県内の入院医療機関を対象に微生物情報を収集し、細菌の検出状況や薬剤耐性の状況を地域別、病院機能別で集計し三重県の感染症の発生動向を把握するとともに地域のアンチバイオグラムを作成する。

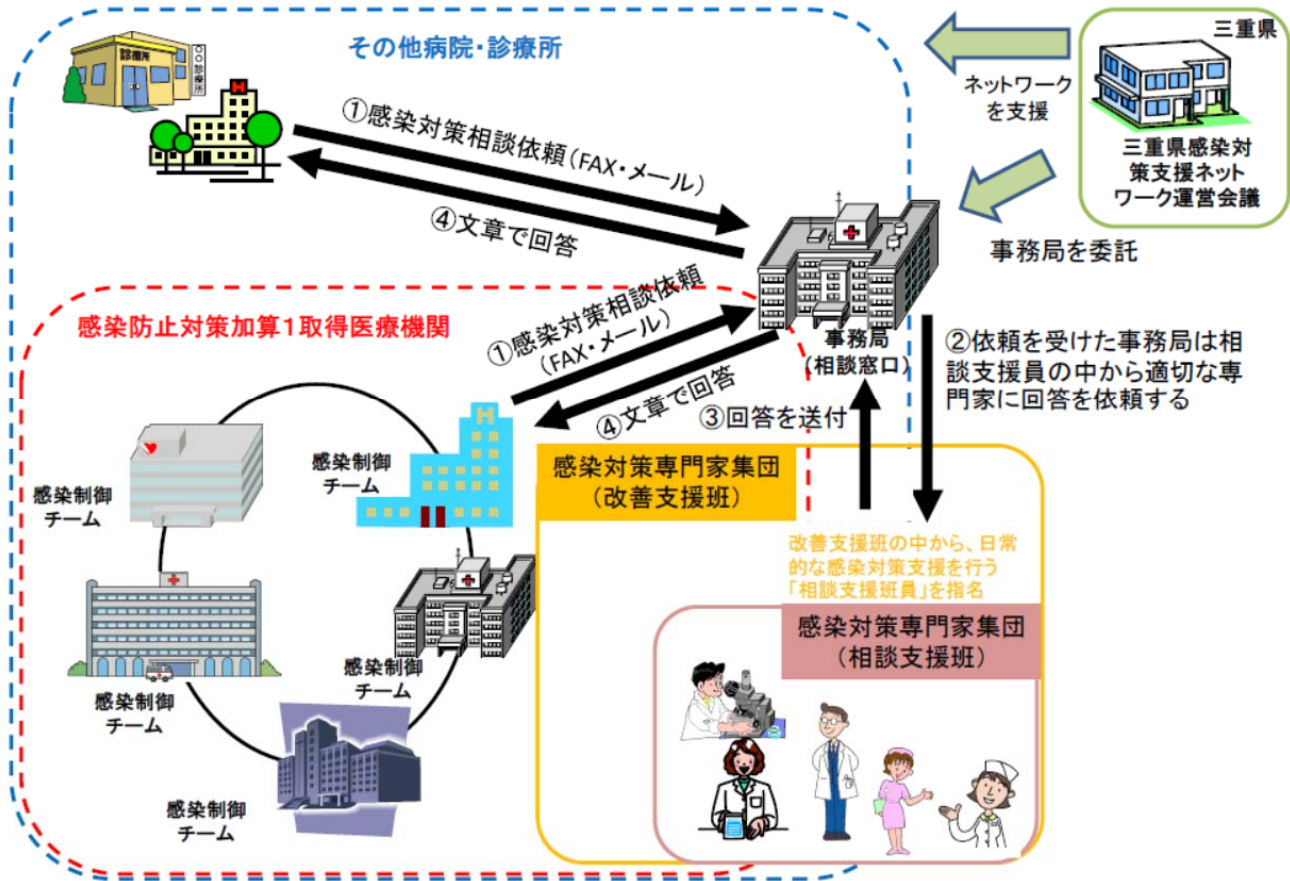
4. 抗菌薬適正使用の推進 [主に薬剤師]

三重県内の医療機関における抗菌薬の使用状況の把握を行う。

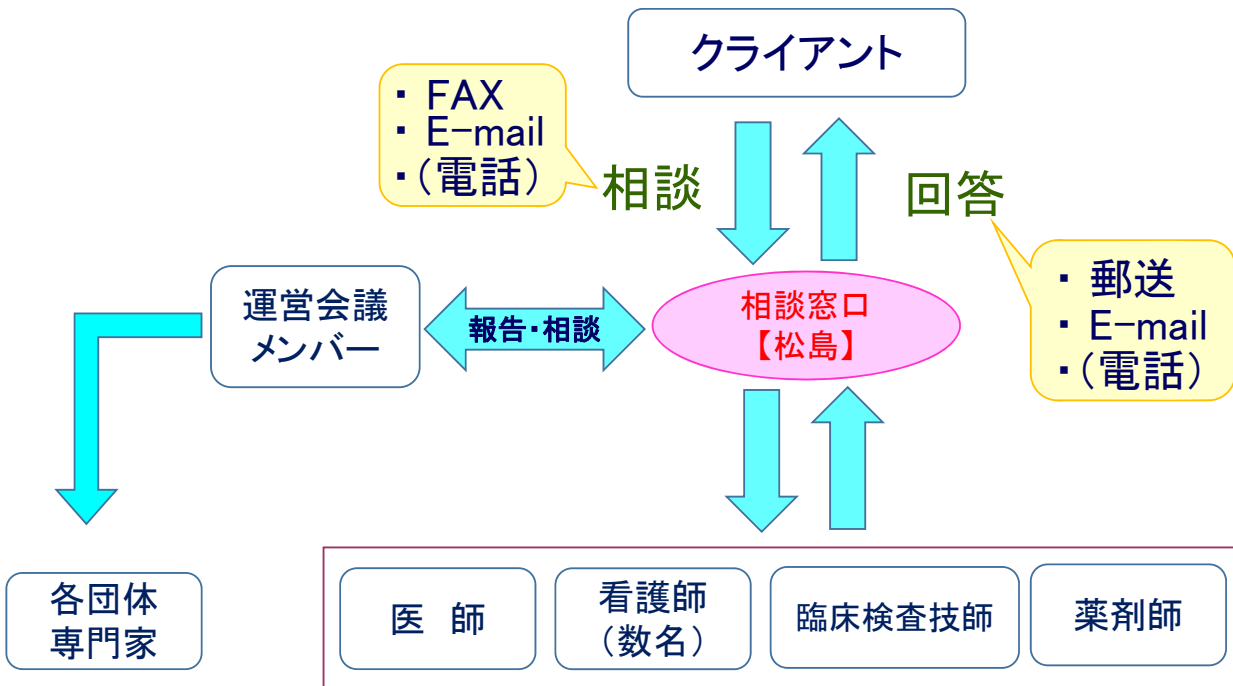
5. 情報共有

感染症、感染対策に関連する情報をメール等で定期的に配信することや、web上で関連情報を公開する。また、定期的に講演会を開催し、情報共有を行う。

三重県感染対策支援ネットワーク(相談支援の概要)

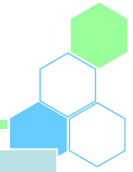


日常的な相談支援のイメージ図



※事務手続き、問い合わせ、各専門家への相談についても窓口を経由

【相談事例 1】



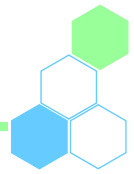
相談者	医療機関の臨床検査技師 (ICT)
依頼方法	E-mail
内容	感染症対策委員会で手指消毒剤(ノロウイルスにも有効)を採用することを決定したが、今後の使用方法について疑問を感じる。
確認	電話で相談内容を確認。消毒薬の耐性獲得を防止するため、夏季と冬季の製品を使い分けることになったが、その方法は適切か。
回答	感染症治療における抗菌薬の投与についてのサイクリング療法(抗菌薬のローテーション)は効果が報告されているが、手指消毒薬に対する薬剤耐性の獲得を防止する目的におけるローテーションに関するエビデンスはないと思われる。季節により入れ替える費用面、使用感(手荒れ・使いやすさなど)を考慮し、再度施設でご検討されることを提案する。手指消毒の順守率を向上させることを最優先にご検討されることが効果的だと考える。

【相談事例2】



相談者	医療機関の看護師 (ICT)
依頼方法	口頭
内容	施設によって感染対策の差が大きいと感じる。地域の医療機関や介護施設を対象とした研修会の開催など、どのように進めていくのが適切か。
回答	運営会議に提案し、当ネットワークの事業として進めていくことを検討したい。

【相談事例3】



相談者	医療機関, 看護師
依頼方法	電話
内容	介護施設への転院を依頼する際、感染症検査の結果を求められる。その時点で未実施の場合は、自費診療で検査しているが、これは一般的か。
回答	介護施設では観血的処置やケアを実施することがなく、感染症検査の必要性はほぼ無いが、まだまだ習慣として残っているのが現状である(有症状の場合は対応が必要)。 また感染症検査を職員の安全管理を目的としている場合、費用は病院が負担する必要がある(現状との差はあるが、特にHIV検査は病院負担として対応している医療機関が多い。数年前に高額の返戻事例あり)。

7

【相談事例4】



相談者	医療機関, 医師(ICD)
依頼方法	E-mail
内容	入院患者の多くは高齢者であり、入院期間も長期におよぶケアミックス型の医療機関である。また、高齢者施設を併設しており、転入出の機会が多い。特に、MRSAまたはESBL産生菌を保菌している入院患者が増加しており、その判定に苦慮している。以前は、培養検査が2回陰性を確認した時点で解除届を提出するシステムをとっていたが、再び陽性となり感染届を提出する患者が増加しているのが現状である。 文献では、「耐性菌の保菌者になると検査で陰性化していても、実際に陰性になっている例は少なくない」、「耐性菌の保菌状態は終生続く」といった記述があった。高齢者が主体の病院では、前述した考え方が妥当であると考え、耐性菌の陰性化を確認する培養検査を中止、「解除届」を提出するシステムも廃止した。 薬剤耐性菌を保菌している患者に対してこのような考え方は適切か。

8

【相談事例4】



相談者	医療機関, 医師(ICD)
依頼方法	E-mail
回答 ICD	<p>耐性菌の検出について、どのような基準を満たせば保菌を解除するかという一定の基準はなく、各施設において設定しているのが現状と思われる。</p> <p>耐性菌の保菌検査を行うこと、また陰性確認し解除を行うことは、病院内での耐性菌の水平伝播を防止することが主目的であり、一つには、接触予防策を行うかどうかの判断材料になると思われる。</p> <p>接触予防策を適用した場合(患者と接触する際には常にガウン・手袋を着用)、標準予防策(行う行為に応じてガウン・手袋を着用)に比べ、感染伝播のリスクを軽減することができるが、接触予防策を適応する患者が増えると、その分、医療者への負担も増大する。</p> <p>耐性菌の患者が少なく、保菌患者に対して、接触予防策を継続することが可能な状況であれば、その対策で良いが、接触予防策の継続が大きな負担となるようであれば、リスクの低い患者については、一定の基準を満たした時点で、接触予防策を解除するのも一つと思います。リスク評価をする際には、一概に菌の検出の有無だけで判断するのではなく、抗菌薬の投与の有無、感染症の状況、菌の検出部位なども総合して、判断していくのも一つの方法になると考える。</p>

9

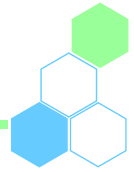
【相談事例4】



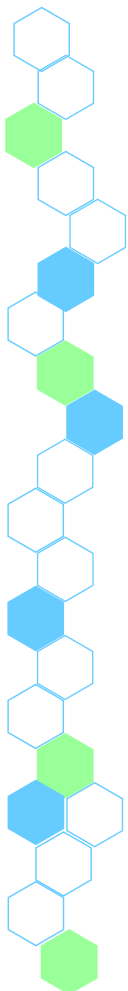
相談者	医療機関, 医師(ICD)
依頼方法	E-mail
回答 ICN	<p>この問題については、どの施設も困惑しているのが現状である。</p> <p>ご意見の通り、耐性菌の陰性化を確認することは困難であり、再燃や、検体の採取部位が異なれば陽性に出る可能性も十分にある。耐性菌の陰性化だけでなく、培養検査の結果で感染の有無を判断するのは極めて困難だと考える。</p> <p>ICDの回答と重複するが、職員が標準予防策を理解し遵守できるよう教育していくことが重要だと考える。次に、血液や体液に接触する頻度が高い(医療処置や看護ケアなどの接触する回数が多い、接触する範囲が広い)場合は、必要に応じて接触予防策を追加するという方法はどうか。また、急性期病院の集中治療の場面とはリスクを層別化して考えることも必要だと考える。</p>

10

まとめ



- ◆ 相談支援の窓口開設～2016年3月31日まで、合計5件の依頼を受けた。
- ◆ 明確に回答できないものもあるが、MieICNet全体の課題として取り組んでいきたい。
- ◆ 相談支援の内容については、ホームページ上で公開していく方向で検討



感染対策相談支援の依頼方法

1 感染対策相談支援依頼紙に必要事項を記載する

 [MieICNet相談支援依頼紙 \(Excel\) >](#)

 [MieICNet相談支援依頼紙 \(PDF\) >](#)

2 FAXまたはE-mailにて、以下のMieICNet感染対策相談窓口宛送付する。

感染対策相談窓口

MieICNet事務局(感染対策相談窓口)

南島メディカルセンター 看護部

担当 松島

E-mail yumi.matsushima@miekosei.or.jp

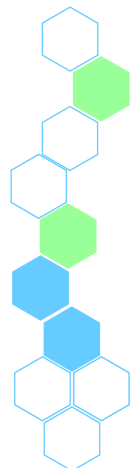
TEL 0596-72-0001 (代) PB:613

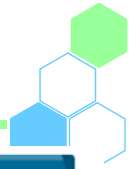
FAX 0596-72-2312

※原則として、相談支援の依頼方法に従い、FAXまたはE-mailにてご連絡ください。

(やむを得ない場合は、お電話でも受け付けさせていただきます)

※質問内容について不明な点があった場合は、お電話、メールでご確認させていただき事をご了承ください。





- HOME
- MieICNetとは
- アウトブレイク発生時の支援
- 感染対策相談**
- 微生物特殊検査
- 微生物サーベイランス
- 抗菌薬サーベイランス
- 感染対策研修会
- 感染症・感染対策関連資料
- お問い合わせ先

感染対策相談

MieICNetでは、三重県内の医療機関における感染対策の向上を目指して、日常的な感染対策・教育に関する相談支援を行っています。

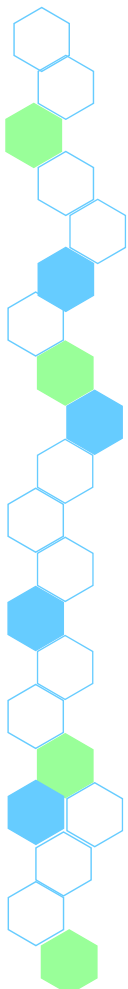
県内の医療機関は、MieICNetに感染対策・教育に関しての相談ができます。感染対策相談を依頼される医療機関は、以下の問い合わせ先よりご連絡ください。

相談支援の依頼があった場合、MieICNetは、感染対策の専門家に回答を依頼し、原則として、文章にて回答いたします。他の医療機関の参考となる事例などは、医療機関が特定されない形で、ホームページ上で相談内容・回答を公開することがありますことをご了承ください。

なお、本相談支援は無料です。

三重県感染対策支援ネットワーク
【相談支援の概要】
>

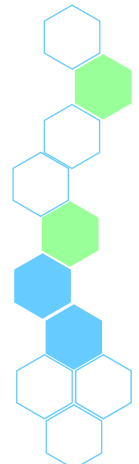
感染対策相談支援の依頼方法



Mie-ICNet 感染対策相談票

	(No.) <small>*受付窓口処理欄</small>
【相談年月日】	平成 年 月 日
【施設名称】	
【施設概要】	<input type="checkbox"/> クリニック
	<input type="checkbox"/> 病院病床数 (床)
	<input type="checkbox"/> 高齢者/福祉施設病床数 (床)
	<input type="checkbox"/> その他 ()
【記載者名】 (担当者)	氏名:
	<input type="checkbox"/> 管理者 <input type="checkbox"/> 感染対策委員 (ICTメンバー) <input type="checkbox"/> その他
【連絡先】	TEL
	FAX
	E-mail
【相談内容】	

日常的な感染対策への相談支援の流れ



ありがとうございました。

